RCAPS 2016-2017

Ritsumeikan Center for Asia Pacific Studies

NEWSLETTER 20周年特別号

Shape your world

APU

Ritsumeikan
Asia Pacific University

立命館アジア太平洋研究センター長
立命館アジア太平洋大学 副学長
FELLIZAR, Francisco Jr., P

2016年、立命館アジア太平洋研究センター（RCAPS）は設立20周年を迎えました。

RCAPSはアジア太平洋学の発展に努め、アジア太平洋地域の未来を形づくるための協力関係を構築する拠点として、また研究成果を集約・共有する拠点として、かつ人類の平和と繁栄・持続可能性へ向けた相互作用を高めるための新しい知識やノウハウを共有する世界的拠点として設立したものです。

RCAPSが持つ関連性や革新性、サービス、卓越性、責任といった組織的価値に基づき、社会的価値を更に高め、組織および制度の持続性を高めることを目指します。小規模な組織では難しい作業に見えるかもしれませんが、豊富な見識、経験、専門知識を活用すれば不可能なことではありません。

RCAPSは、かつて困難な時期や成長の苦しみを経験してきました。しかし今や、アジア太平洋地域の枠を超え、人類の未来に影響を及ぼすべく、新たな高みに立ち、新しい基盤を確立しようとしています。

設立者や歴代のセンター長、過去および現在のRCAPS運営委員会メンバー、APUリサーチ・オフィスのスタッフ、今日までRCAPSを支えてくれたパートナーと支持者に敬意を表します。やらなければならないことはまだたくさん残っています。旅は長く困難ですが、未来への責任を分かち合うならば、常に光は水平線上にあるでしょう。RCAPSにとって、最高の時代はこれからやってくるのです。

国際協力・研究部長
佐藤 洋一郎

APUの研究力向上を目指したICRDやRCAPSの取り組みは、研究助成金の採択件数や毎年開催している「アジア太平洋カンファレンス」の参加者数の増加といった、目に見える成果として現れています。

次の段階として、新規獲得した研究助成金とアジア太平洋カンファレンスで得たネットワークを活用し、定期出版物を刊行します。また、ICRDが資金提供した国際会議／ワークショップを注視するとともに、その成果として書籍の出版も確認しました。RCAPSからカンファレンス助成金を獲得した教員の成果物に関しても注目しています。こうした活動は、さまざまな研究支援スキームの有効性に関する貴重なデータを提供してくれるでしょう。

“グローバル”大学間の競争が激化する中、研究予算は縮小傾向にあります。そのため内部研究資金をより効果的に活用すること、より多くの外部研究助成金を獲得することは、ますます重要な課題となっています。この目標達成に向けて、教員や大学院生を対象とした「キャパシティビルディング」型ワークショップを実施しました。同様のプログラムは、今後も定期的に開催していきます。

20周年記念ロゴ

1996年7月、立命館学園は立命館アジア太平洋大学の開学に先立ち立命館アジア太平洋研究センター（Ritsumeikan Center for Asia Pacific Studies : RCAPS）を設立しました。センターでは、アジア太平洋研究のCenter of Excellenceをめざして、研究会、プロジェクト研究、共同研究、国際シンポジウムなどを実施し、本学の研究成果の流通を促進するとともに、国内外の研究者、研究機関とのネットワークの強化をめざしています。学園におけるこれまでのアジア太平洋に関する研究成果を継承するとともに、アジア太平洋地域の持続的発展と共生を実現するための政策志向的な新しい教育研究領域である「アジア太平洋学」を構築することを基本目標の一つにしています。

1996年7月	立命館アジア太平洋研究センター（RCAPS）設立
1998年8月	Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies 創刊
2000年4月	立命館アジア太平洋大学 開学
2003年11月	第1回アジア太平洋(AP)カンファレンス開催
2010年7月	アジア太平洋国際学会（IAAPS）設立
	記念講演「貧困のない世界を創る」ノーベル平和賞ムハマド・ユヌス氏
2010年11月	Asia Pacific World 創刊
2016年7月	APU言語研究論叢 創刊
2016年10月	RCAPS20周年記念シンポジウム「Asia Pacific Studies: Looking Back into the Future」開催

“アジア太平洋の時代というのは、新しいアジア太平洋の文明が形成されていく時代。私たちが意識して作っていく必要がある”
“アジア太平洋文明が地球を覆うような変化が今起こっている”

“市場経済学では均衡は一つしかないという考え方をする。ビジネスマネジメントのやり方はそれぞれの国で違いがあるけれども、それはそのうち収斂していく”

“一つのアジアというコンセプトは新しいものではない”
“研究の分野で、どのようにアジア太平洋学またはAPUにおけるアジア太平洋人を形成していくか問われている”

SAKAMOTO Kazuichi

YOKOYAMA Kenji

MANI A.

RCAPS 20周年記念シンポジウム
Asia Pacific Studies: Looking Back into the Future

SATO Yoichiro

KONDO Yuichi

SEIKE Kumi

“アジア太平洋学はアジア太平洋地域とそれ以外の地域の比較研究も含む、既存の社会科学・人文科学系学問領域にまたがる学問領域である”

“アジア太平洋というコンテンツをアジア太平洋的に教える”
“APUスタイルの教授法の研究をさらに進化させる”

“アジア太平洋学は、加速度的に変化するこのグローバル社会の新秩序を読み解き、そこで起こる問題をどう考え解決するかということをその変化と共に把握する学問である”

2016年10月12日(水)、20周年記念シンポジウム「アジア太平洋学：Looking Back into the Future」を開催しました。当日は学生や教職員、約150名が参加しました。

冒頭、立命館アジア太平洋大学（APU）初代学長で、現在、APU及び学校法人立命館名誉教授の坂本和一氏は、1980年代のアジア太平洋諸国の経済成長と同時に、その地域を学問として見る流れが生まれ、こうした時代を背景にAPUが構想・設立されたことを述べた上で、アジア太平洋の発展を経済成長といった側面だけでなく、文明的なものとして捉えることの重要性を主張しました。そして、現在のアジア太平洋地域が、アジア太平洋学の生まれた当時と比べ多様化している点から、「アジア太平洋文明とは、ひとつの型にとらわれないグローバル化した文明であり、これからの時代の中心となる」と強調しました。その一例として、APUもアジア太平洋諸国からの学生だけでなく、アフリカや北南米など全世界から学生を受け入れていることに触れました。

続いて、FELLIZAR RCAPSセンター長による司会のもと、各パネリストがそれぞれの専門領域をふまえたアジア太平洋学について見解を述べました。

横山副学長は市場経済学の考え方を紹介しながら、「アジア太平洋的ビジネスマネジメントが生まれた経緯を論じることはあまり意味がない。それは歴史の流れの中で既存の制度を継承しつつ変化したものであるから。以前はどうだったか、現在はどう変化したか、そして今後どのように変化するかを考えることこそ重要である」と述べました。

MANI元RCAPSセンター長は、“約20億人の人口を抱える中国とインドの発展なしにアジア太平洋の発展はない”とした鄧 小平とラジーヴ・ガンディーの会談を引用し、その実現は十分に可能だと述べました。また坂本初代学長が述べた“APUのアジア太平洋人によるアジア太平洋研究の実現”について、アジア太平洋地域出身者によるアジア太平洋研究が必要であると賛同しました。

佐藤国際協力・研究部長は、アジア太平洋学を、アジア太平洋地域とそれ以外の地域の比較研究も含み、既存の社会科学・人文科学系をベースに複数の領域にまたがるべき学問であると述べました。また運営側として、今後のRCAPSの研究活動を、限られた資源で効果的な支援を行うことが重要であると意見を述べました。

近藤入学部長は、アジア太平洋という定義がAPU開学時と比べ現在では多様化、複雑化、不確実化しており、学生に考えさせ、スキルを身につけさせるだけの資源を教員側が蓄えることが求められているとし、RCAPSが拠点となってアジア太平洋研究について整理、進化、発展させる重要性について触れました。

清家アジア太平洋学部副学部長は、アジア太平洋学部のカリキュラム改革に関わった視点から、アジア太平洋学を“加速度的に変化するグローバル社会の新秩序を読み解き、そこで起こる問題の解決策を、その変化と共に把握する学問”であるとした上で、「社会や世界に対して大学が迎合的になりすぎるのではなく、相対化しながら、次の時代のために何をすべきか考えられるような学生を育てたい」と述べました。

参加した学生や教員からは、RCAPSの意義や、アジア太平洋学部は今後どのような学びを提供していくのか、及びAPUで学んだことを国際社会にどう役立てていくべきか等の多くの質問と意見が出ました。

第14回アジア太平洋カンファレンス「変わりゆくアジア太平洋ー知識の共有、未来の創造」開催

2016年11月5日（土）、6日（日）、RCAPS20周年記念企画の一環として「第14回アジア太平洋カンファレンス」を開催しました。

「変わりゆくアジア太平洋ー知識の共有、未来の創造」をメインテーマとした今回のカンファレンスには、発表者と聴講者を合わせ約500名の参加があり、開催史上最大の規模となりました。国内はもとより、約20の国・地域から著名な研究者、大学院生、学部生が、教育、国際関係、観光、女性の社会進出、言語教育、国際ビジネス、アジア太平洋学など幅広い分野の研究発表を行いました。

また、世界中で活躍する2名の著名な研究者を基調講演者として招き、最新の研究テーマについてお話いただきました。

まずLAW, Japhet S.教授（EFMD*1およびGMAC*2シニアアドバイザー）が、「アジアにおけるビジネス教育の発展について」という題目で、アジア経済の発展を支える原動力について、またその原動力が今日私たちが目にしている結果にどのような違いをもたらしてきたのかを分析し、今後のアジアにおけるビジネス教育分野の課題とチャンスについて論じました。

次に、苅谷剛彦 教授（オックスフォード大学社会学科およびニッサン現代日本研究所教授）が「グローバルな時代に日本社会を研究するということ」という題目で、教育改革を行うという習慣は、近代化・西洋化を目指し続ける日本の長い歴史の中に根付いており、（西洋と比べて）なにか欠如しているという理論は、その歴史の中で繰り返し教育政策立案に反映されていると述べました。

また、是永駿APU学長は「中国の現代詩と詩学」という題目で、東アジアと中国の現代詩と詩学の歴史年表について、またその発展と特徴について講演を行いました。

今回のカンファレンスでは、メインテーマに基づいた73の分科会が英語と日本語で行われ、幅広いテーマについて広範囲な議論が繰り広げられました。未来の研究者の活躍の場として、今回、学部生セッションを設け、学部生が、日本語9本、英語25本の研究発表を行いました。

アジア太平洋カンファレンスは、参加した研究者、講演者、聴講者にとって、アジア太平洋地域の諸問題について新たな知見を共有する場となりました。

第15回アジア太平洋カンファレンスは、2017年11月11日（土）～11月12日（日）開催を予定しています。

*1 European Foundation for Management Education
*2 Graduate Management Admissions Council

是永 駿 APU学長

VOICE

ARIDA, Clarissa. C
アセアン生物多様性センター（ACB）
プログラム・ディベロップメント&
インプリメンテーション ディレクター

第14回アジア太平洋カンファレンスは、アジア太平洋地域の開発の鍵となる課題に関する知識を共有する重要なプラットフォームとなりました。アセアン生物多様性センター（ACB）がアセアン遺産公園（AHP）の効果的なマネジメントを軸とした、生物多様性保全に関する東南アジア諸国連合（ASEAN）の取り組みに関するセッションを共催できたことは、私たちとしても意義のあることでした。AHPはASEANの中でも特に保護された区域となっており、同地域の代表的な固有の生態系を含んでいます。セッションでは、生物多様性と生態系の機能を保護し、地域社会の経済を支援する手段としての、エコツーリズムの重要性を議論する機会を提供できました。参加者からいただいた積極的なフィードバックやコメントは、同地域の生物多様性の問題に大きな関心を寄せていただいているということの表れであり、生物多様性の損失と生態系の劣化に対処する解決策を模索しました。

MOON Hyoung Koo
高麗大学ビジネススクール 教授

アジア太平洋カンファレンスのクオリティは期待をはるかに上回るものでした。学際的な73ものパネルセッションと、世界中から集まった知的情熱に満ちた約500人の参加者に、私は驚き、感心させられました。このカンファレンスのテーマは人文科学、政治学、経済学、マネジメント、教育学など、真にグローバルかつ学際的で、現在、私たちが直面しているさまざまな問題や課題を網羅していました。アジア太平洋カンファレンスに参加できたことを誇りに思います。また、全参加者の知的貢献と討論内容、APUのスタッフの温かいおもてなしに感謝しています。美しい天気と温泉でリラックスできる良い環境のなか、知的な刺激を受けられ、充実した経験をすることができました。カンファレンスのすべての側面に感銘を受けました。来年もまた参加したいと思っています。

LAW, Japhet S. 教授

苅谷 剛彦 教授

セミナーシリーズ

RCAPS セミナー / カレントリサーチセミナー

日程	タイトル	講師	所属	言語
5月18日	APU DIPLOMATIC FORUM Philippines-Japan Strengthening Strategic Partnership in the Asia-Pacific: Views from Both Sides	卜部 敏直 元駐フィリピン特命全権大使 TIROL-IGNACIO, Marian Jocelyn R. 在日フィリピン大使館 公使兼総領事	在フィリピン日本大使館 在日フィリピン大使館	英語
6月 8日	Development of the Automotive Industry in Southeast Asia and Central Europe	夏田 郁 教授	立命館アジア太平洋大学	英語
6月27日	Asia's Changing Security Environment and the Dilemmas for Vietnam and Southeast Asia	VU, Tuong 准教授	オレゴン大学 (米国)	英語
7月 6日	The Politics of Yasukuni Shrine	MULLINS, Mark R. 教授	オークランド大学 (ニュージーランド)	英語
10月17日	Corporate Venturing and Open Innovation: A Perspective from Silicon Valley	石井 正純 氏	AZCA, Inc. - 代表取締役社長 Noventi - Managing Director 静岡大学大学院客員教授	英語
11月 7日	Regional Economics and Regional Policy in Korea	KIM Iltae 教授	全南大学 (韓国)	英語
11月15日	Critical challenges for European Security - Perspectives from Central and Eastern European (CEE) countries -	細田 尚志 博士	プラハ・カレル大学 (チェコ)	英語
12月21日	The educational roles of extracurricular club activities in Japanese high schools	BLACKWOOD, Thomas 教授	東京国際大学	英語

RCAPS20周年記念特別セミナー

日程	タイトル	講師	所属	言語
7月19日	翻訳言語と詩学	是永 駿 APU学長	立命館アジア太平洋大学 学校法人立命館	英語
12月14日	A Unified Economic Theory Constructed with Synergetic Economics and Computer-A non-mathematical exposition	ZHANG Wei-Bin 教授	立命館アジア太平洋大学	英語
1月18日	Tourism for Health and Health Tourism	LEE Timothy 教授	立命館アジア太平洋大学	英語

知的財産セミナー

日程	タイトル	講師	所属	言語
10月14日	著作権セミナー Copyright in Education	増田 雄護 氏	文化庁長官官房著作権課	日本語・英語
10月26日	知的財産セミナー　ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®ライセンス活動～テーマパークと知的財産権～	北口 圭介 氏	株式会社ユー・エス・ジェイ 法務部	日本語

【セミナーレポート】

2016年6月27日(月)、オレゴン大学のVU,Tuong教授をお迎えし、「Asia's Changing Security Environment and the Dilemmas for Vietnam and Southeast Asia」と題してRCAPSセミナーを開催しました。

【吉田 香織 教授（アジア太平洋学部）によるレポート】

VU教授は講演で南シナ海が直面する時事問題を扱いました。南シナ海の緊張によるアジアの安全保障環境の急激な悪化により、ベトナムや他の東南アジア諸国は難しい選択に直面しています。VU教授はまず、米国や中国、日本、ロシアに対する政治姿勢（見方or脅威など）や問題となっている海域での各国の対応など、東南アジアの現在の政治経済の状況を概説しました。VU教授は、米国や日本寄りの国やそうでない国があり、中でもベトナムは不安定な立ち位置にあり、ベトナムと他の東南アジア諸国の国内政治が未来にとっても、そして米国や日本の政治にとっても、不透明な意味あいを持つと話されました。

聴衆の大半は、ベトナム人学生を中心とする学部生と大学院生でした。質疑応答では活発で示唆に富む議論が交わされ、最近の若い世代や学生が不安に思ったり、歯がゆく思っている現実の状況や重要な問題が反映された質問もありました。学んで知っていた知識と、日本に来てから（または母国以外の場所で）聞いた知識との違いに対する怒りや困惑を示した学生もいました。現代社会に存在する圧倒的な情報の中から正しい情報を得る方法についてVU教授に尋ねる学生もいました。これらの質問や議論は有意義で、すべての参加者の知的好奇心を満たすものだったに違いありません。

付属研究センター

RCAPSは、アジア太平洋地域に関する総合的研究を行うことを目的としています。アジア太平洋研究の発展に資する研究・活動を強化する施策として、附属の研究センターを設置しています。

Ritsumeikan Center for Asia Pacific Studies RCAPS

アジア太平洋イノベーション・マネジメント・センター（AP-IMAC）

アジア太平洋のイノベーション・マネジメント分野における教育水準、研究水準の向上と地域貢献、国際貢献活動を牽引するとともに、グローバル・リサーチ・ネットワークの促進を目指しています。

センター長　中田 行彦 教授

《2016年度の主な活動》

- 7月　ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～「日本のモノづくりと国際経営～液晶電卓の誕生から液晶テレビ、太陽電池へ～」

APU次世代事業構想センター（APU-NEXT）

アジア太平洋のビジネス社会における「すでに起こった」未来に焦点を当てその本質解明を通じて次世代のビジネス・産業の未来を構想することを目指しています。

ディレクター 牧田 正裕 教授

《2016年度の主な活動》

- 6月　研究・イノベーション学会 九州・中国支部 第13回研究会「製品開発・技術開発と社会にあわせた進化」
- 10月～11月（全5回）「APU-NEXT：世界で活躍するリーダー企業 –グローバル・ニッチトップ企業の経営戦略– 講座」（主催：大分市産業活性化プラザ）
- 11月　APカンファレンス分科会「グローバル・ニッチトップ企業の持続的成長メカニズムの解明」
- 11月　研究・イノベーション学会 第31回年次学術大会 ドイツ・セッション「ドイツに学ぶ科学技術政策がもたらすイノベーションとマネジメント」
- 5, 9, 1月　産学異業種交流会　豊六次会（主催：NPO法人グローバルビジネスネットワーク/共催：APU-NEXT）

ムスリム研究センター（RCMA）

80カ国以上の国・地域から学生が集まるAPUのユニークな人的資源と地域の課題を結びつけ、「地方創生」に貢献しうる実践的な研究活動を行い、活動成果を有益な情報として、研究者のみならず、企業や自治体、地域へ提供することを目指しています。

センター長　山本 晋 教授

《2016年度の主な活動》

- 6月　RCMA特別講座「ホテルグランヴィア京都 ハラル対応の取り組み」＆中間報告発表会
- 7月　ハラル醤油試食会

民主化支援研究所

日本政府による民主化支援に関する報告書作成を一義的な目的として、先進諸国による途上国の民主化支援とAPU在籍大学院生による関連研究を包括し、これらを足がかりとした更なる外部受託研究・研究資金の獲得、学会発表・論文出版を目指しています。

センター長　佐藤 洋一郎 教授

《2016年度の主な活動》

- 11月　APカンファレンス分科会「Democracies and Democratization in the Asia Pacific」

ヘルスツーリズムアジア太平洋研究所（APRIHOT）

温泉のメッカと呼ばれる別府市に立地するという利点を生かし、国内外での共同研究を積極的に行い、観光学分野の牽引役となることを目指しています。

センター長　LEE Timothy 教授

研究支援

客員研究員紹介

アジア太平洋地域の諸問題をはじめとする特定の課題に対し、本学教員との共同研究に従事することで、社会の発展に寄与することを期待し、客員研究員を受け入れています。

黄 苏萍 准教授
上海大学 社会学院

専門分野：人口経済学、地域発展と産業、社会政策
現在の研究テーマ：中国国家社会科学基金の支援を受け、「高速鉄道の人口移動への影響と制度設計に関する研究」をテーマに、世界人口の1/5を占める中国で、高速鉄道が人口移動に与える影響やそのメカニズム、経路、趨勢、および関連政策について研究しています。現代の中国では、高速鉄道のネットワーク化、大衆化、常態化、生活化によって、地域間の人・物・資金・情報の流れに大きな変化が生じており、高速鉄道導入に長い歴史のある日本では、どのような研究がなされ、地域発展と人口分布にどのような影響があったのかを調査しています。
趣味：旅行、音楽、読書など

MBEREGO, Seth 博士
立命館アジア太平洋大学

専門分野：環境政策、地理情報システム（GIS）
研究テーマ・コメント：環境問題の解決に向けた地理情報システム（GIS）を研究しています。立命館アジア太平洋大学（APU）の修士課程と博士課程在籍時に行った研究では、南アフリカでGISを使用し、極端な気候変動の調査を行い、研究成果をアメリカ気象学会とイギリス王立気象学会のジャーナルに掲載しました。現在、行っている研究でも、GISを利用し、メガシティーの成長の軌跡を調査しています。都市が大きくなるにつれ、空間情報はサービスの成長と供給を監視する不可欠なリソースになりつつあります。研究活動を提供してくれたRCAPSと指導教官のLI Yan（李　燕/リ・エン）教授に感謝しています。
趣味：ランニング、旅行

修士課程学生フィールド・リサーチ/学会発表補助制度

大学院修士課程に所属する学生（2セメスター・3セメスター）を対象に、修士論文執筆ないし博士課程への進学を目的としたフィールド・リサーチや学会発表を行う際の費用を補助する制度です。
採択実績：春セメスター10件、秋セメスター11件

博士後期課程学生対象研究支援制度

大学院博士後期課程に所属する学生（1～6セメスター）を対象に、国際的に通用する学術論文の執筆や顕著な研究成果をあげることを期待し、当制度を実施しています。学会発表（参加費、登録料）や、各種プログラム、セミナーへの参加、フィールド・リサーチ及び学術論文作成に関わる諸費用（ジャーナル投稿料、英文校閲サービス利用料等）を補助する制度です。
採択実績：春セメスター 11 件、秋セメスター 9 件

国際協力・研究部

国際協力・研究部では、文部科学省および日本学術振興会の科学研究費助成事業（以下：科研費）や、民間研究財団をはじめとする助成団体の助成金など、学外からの研究資金の獲得に積極的に取り組んでいます。また、国際的なリエゾン活動を重視し、学外機関との交流を推進しています。

国際協力・研究部の主な研究支援

科研費採択実績：http://www.apu.ac.jp/researchsupport/page/content0015.html/

〈主な学内の研究支援の紹介〉

個人研究費の支給（資料費・旅費）	教員の日常的な研究を支援する制度です。1人あたり1年間で資料費20万円、旅費10万円を支給しています。
学術研究助成（科研費準備型）	優れた研究計画への助成を通じて、科研費申請の準備を支援する制度です。個人研究、グループ研究ともに上限10万円としています。
学術研究助成（科研費再応募型）	科研費に申請し、残念ながら不採択となった研究代表者を対象に、次年度の応募に向けてサポート資金を助成する制度です。最高50万円を上限として支給します。
学術研究助成（科研費受給者支援型）	科研費を受給している研究代表者に対し、科研費研究課題遂行のための追加的研究費、または新規研究課題準備のための研究費として助成を行う制度です。最高50万円を上限として支給します。
学術研究助成（新任者科研費申請促進型）	本学の新任教員の研究活動を活性化・高度化し、外部資金獲得を支援することを目的とした制度です。科研費申請を条件として支給します。最高20万円を上限として支給します。
学会発表補助制度	学会等へ発表者として参加する場合に1年度に２回まで交通費、宿泊費、学会参加費の合計額の3分の2を補助する制度です。上限25万円を支給します。
学術図書出版助成	科研費「研究成果公開促進費（学術図書）」申請を条件に教員の研究成果の図書出版を支援する制度で、最高60万円を上限として支給します。
学外研究員制度（ADL）	半年間授業および公務を免除し、研究に専念できる期間を提供する制度です。

このほか、科研費を中心に教員の学外資金申請支援など、国際協力・研究部では教員に対して支援を実施しています。

※上記研究支援制度の申請には一定の条件があり、募集要項等の応募条件を満たす者のみが申請できる制度となっています。詳しくは募集要項に記載しています。

国際協力事業

国際協力・研究部では、2006年度から独立行政法人国際協力機構（JICA)の委託を受け、アフリカ、アジア、南米など世界各国の主に行政官を対象とした地域開発のための研修を行っています。研修では都市と地方の開発格差や開発途上国の貧困削減に焦点を当て、地域振興の概念と実践を相互に関連付け、行政、民間、地域住民が一体となってコミュニティ・キャパシティ（組織的な課題対処能力）を向上するよう、その推進者の育成を目指しています。APUは、これまでに約760名の研修員を受け入れました。
（研修実績：http://www.apu.ac.jp/researchsupport/page/content0055.html/）

主な事業実績は以下のとおりです；
・課題別研修「地域振興(一村一品運動)(C)」コース（アジア大洋州地域）
・課題別研修「地域振興(一村一品運動)(B)」コース（南米地域）
・国別研修　（ボスニア・ヘルツェゴビナ国　地域振興と地方行政）
・課題別研修「地域振興(一村一品運動)(A)」（アフリカ・東欧地域）
・草の根事業　地域提案型「タイスリン県におけるコミュニティ・キャパシティ開発による地方開発プロジェクト」　ほか多数実績有

RCAPS出版ジャーナル

Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies　vol. 35 / 2016
東洋・西洋の島々を含めたアジア太平洋地域の、人、社会、文化等に関する英語論文、日本語論文を掲載しています。

Asia Pacific World
vol. 6 / 2015
アジア太平洋地域の社会、政治、文化、経済発展に焦点をあてた査読付学術誌です。今日、また未来のアジア太平洋とそれに関連する世界各国が直面する問題について掲載しています。

APU言語研究論叢
vol. 1, vol. 2 / 2016
言語や言語教育に関する英語論文、日本語論文を掲載しています。

出版物

書籍

著者	タイトル	出版社	出版年
五十峰 聖 他	TOEFL TEST　スピーキング英単語	河合出版	2016
吉川 卓郎 他	中東の新たな秩序	ミネルヴァ書房	2016
PARDO, Phillip Dean 他	Mastery-Altruism-Passion Model: Return to Knightly Virtues in Business	Scholars' Press	2016
中田 行彦	シャープ「企業敗戦」の深層　大転換する日本のものづくり	イースト・プレス	2016
COOPER, Malcolm J. M. VAFADARI M. Kazem 他	Current Issues and Emerging Trends in Medical Tourism	IGI Global Press	2015
愛新覚羅 烏拉熙春 他	大中央胡里只契丹国―遙輦氏発祥地の点描―	松香堂	2015
金 賛會	お伽草子・本地物語と韓国説話	三弥井書店	2015
藤本 武士 牧田 正裕	グローバル・ニッチトップ企業の事業戦略	文理閣	2015
佐藤 洋一郎 他	United States Engagement in the Asia Pacific: Perspectives from Asia	Cambria Press	2015

チャプター

著者	チャプタータイトル／書籍タイトル	出版社	出版年
高柴 優貴子	Gingerly Walking on the VCLT Frontier? Reflections from a Survey on the Interpretive Approach of the Japanese Courts to Treaties (12章)／ The Interpretation of International Law by Domestic Courts: Uniformity, Diversity, Convergence	Oxford University Press	2016
須藤 智徳	Domestic and International Finance in a Regional Perspective (15章)／ Investing in Low-Carbon Energy Systems - Implications for Regional Economic Cooperation	Springer	2016
山神 進	国際政治と政策情報学 (II部1章) ／ 政策研究を越える新地平	福村出版	2015
PROGLER, Joseph	Relational Thinking in the Humanities and Social Sciences: The Educational Dimension of Eco-Justice／ Eco-Justice: Essays on Theory and Practice in 2016	Eco-Justice Press	2015
GHOTBI, Nader	The Ethics of Medical Tourism (6章) 、Gathering Medical Tourism Information through Algorithmic Text Analysis of Tweets (13章)／ Current Issues and Emerging Trends in Medical Tourism	IGI Global Press	2015
吉田 香織	(In)visible women : gendering of popular war memories through the narrative of the Battleship Yamato for six decades in postwar Japan (7章)／ Routledge Handbook of Memory and Reconciliation in East Asia	Routledge	2015
綛田 芳憲	North Korea and U.S. Engagement (7章)／ United States Engagement in the Asia Pacific: Perspectives from Asia	Cambria Press	2015

※学内教員から頂いた情報をもとに掲載しています。

第15回 アジア太平洋カンファレンス　発表参加者募集

～変わりゆくローカルな地平をのぞむグローバルな眺望～

我々は常に他者との協力関係や交流、力の優劣、影響力などが複雑に絡み合った世界の中で、結びつき、繋がりあい生きている。グローバルな問題が地方の現実を表す一方で、地方の問題もまたグローバルな懸念となっている。英国のEU離脱問題“ブレキジット”や最近の米国大統領選挙の結果は、国家の出来事がグローバルな問題として世界に影響を及ぼした例である。同様に、アジア太平洋地域のかつてない確実な成長や変革は、社会的かつ経済的、政治的な面から世界に影響を及ぼしており、成長を続けるアジア太平洋地域の動向と、情報や金融、ヒト、物資、天然資源などの流れに対する世界の注目は増すばかりである。まさにアジア太平洋地域の経済成長によって生じた政治的力学の変化は、世界の深刻な懸念事項となった。アジア太平洋地域の問題はグローバルな問題となり、グローバルな懸念は必然的にアジア太平洋地域の生活に影響を及ぼしているのである。

国家や地域、世代を超えて、ダイナミックにかつ複雑にからみあった諸問題に対して、持続可能な未来をもたらすという視点から、責任を持って対処すべきであると認識し、探求する挑戦的機会が、我々に提示されている。

2017年のカンファレンスは、知識の結集および共有の場・組織活性の場・知識に基づいた政策提言の場となるとともに、アジア太平洋およびその周辺地域の平和と安全、持続的な発展へ向けた行動を引き起こす場となるだろう。
世界の未来は結果的には地域の未来となり、責任を共有することもまた必然である。

以下のようなトピックに関する個々人からの発表申し込み、ラウンドテーブルやパネル申請を募集します。

- アジア太平洋における高齢化と人口移動
- 変わりゆくローカルにおける破壊的技術
- 新興市場：アジア太平洋地域における成長と展望
- 都市化とグローバル化
- 環境と資源管理
- 気候変動、リスク、災害準備と管理
- 貧困、格差、食糧安全保障
- 地域統合と協力
- 平和、紛争、安全保障
- 変わりゆくローカルにおける組織とガバナンス
- グローバル教育の動向と課題
- 競争的かつ変化するビジネス環境下での経済と金融
- 持続可能な消費と生産
- 持続可能な開発目標（SDGs）2030時代のアジア太平洋学
- 変貌するアジア太平洋地域における言語、文学、人文学
- グローバル社会における変わりゆく政治と変るための政治
- サステナビリティのためのビジネス
- 気候変動とグローバル化における地域社会のレジリアンス
- 健康、レジャー、メディア、エンターテイメント
- その他、アジア太平洋地域に関するテーマ

日時：2017年11月11日（土）～12日（日）
場所：立命館アジア太平洋大学（APU）
開催言語：英語・日本語
参加費：¥10,000　（学生 ¥5,000）

お申し込み期限（オンライン）：2017年5月31日
http://www.apu.ac.jp/rcaps/ よりアブストラクトをご提出ください。
お問い合わせ：apconf@apu.ac.jp

2016年 RCAPS運営委員	FELLIZAR, Francisco Jr., P	RCAPSセンター長、副学長（国際協力・研究担当）
	LEE Timothy	RCAPS 副センター長
	佐藤 洋一郎	国際協力・研究部長
	笹川 秀夫	国際協力・研究部副部長
	ZHANG Wei-Bin	国際協力・研究部副部長
	吉田 香織	アジア太平洋学部　教授
	KIM Rebecca ChungHee	国際経営学部　教授
	村田 陽一	APU事務局次長

お問い合わせ

立命館アジア太平洋大学 リサーチ・オフィス

〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1

電話：0977-78-1134　FAX：0977-78-1135

http：//www.apu.ac.jp/rcaps/

Email：研究センター（RCAPS）関連：rcaps@apu.ac.jp

アジア太平洋カンファレンス関連：apconf@apu.ac.jp

Facebook：https://www.facebook.com/APU-RCAPS-259418027780259/

2017年3月発行